



内山ゼミと鹿児島情報高校が連携し 地元の地域活性化策を提案

国際文化学科 内山ゼミ生



国際文化学科の内山仁准教授（教育学）のゼミでは、鹿児島情報高校と地元の「谷山ふるさとコミュニティ協議会」と連携し、同協議会内に設置することになった組織「ユースミーティング谷山」のキックオフミーティングを、5月21日に鹿児島情報高校で開催しました。

この取り組みは、若者に主体的にまちづくりに参画してもらい、多様な視点による地域資源の掘り起こしや若者のアイデアを活用するなどし、地域の課題を解決することを目的に実施。コロナ禍対策として内山ゼミ生23名のうち約半数と、高校2年生29名のうち数

名はオンラインで参加し、高校生が事前に考えた地域活性化案を大学生とグループごとに意見交換しブラッシュアップしました。

参加した学生からは、「高校生がすでに様々な地域活動を行っていることに驚いた。高齢者と若者がオンラインで一緒にラジオ体操をする企画はおもしろそう」や「飲食店のポスターやまちのガイドブックを作り、写真や動画に映えるスポットも紹介したい」などの意見が出されました。

今後も鹿児島情報高校と連携して、地域の活性化に向けて提言を行う予定です。



やねだん(鹿屋市)でフィールドワーク

社会福祉学科 茶屋道ゼミ生

社会福祉学科の茶屋道ゼミ3年生8名が5月22日、地域フィールド演習の一環として、鹿屋市柳谷町内会(通称やねだん)にてフィールドワークを行いました。

やねだんは、大隅半島のほぼ中央に位置しており、高齢化が進む典型的な中山間地域の集落です。アイデア溢れるリーダー(豊重哲郎氏)のもと、子どもから高齢者まで強い絆で結ばれ、集落の独自自主財源を築くなど、地方創生の“Good practice”として全国に注目されるようになりました。やねだんが実際に行った活動としては、自治会内の有線放送、土着菌の開発・販売と焼酎作り、故郷創生塾、寺子屋活動などがあります。

ゼミでは、このようなやねだんの長年にわたる取り組みについて事前に情報収集を行いました。そして、



継続的な取り組みを行うことの困難さや「やねだんの今」について学びを深めるため、フィールドワークを行いました。

豊重さんの語りや、学生

からのインタビューを通して、①地域を再生・創生をしていくには「企画力」、「アドリブ(演出)力」、「財務力」の3つが大事であること、②住民と



本気で向き合っていくには「目配り」、「気配り」、「心配り」の3点セットが大きな鍵であることを学びました。さらに、やねだんでは持続可能な地域づくりのための後継者(人財)育成について、教育・文化の醸成といった視点から行われていることを学びました。

今回の訪問では、「福祉」×「地域づくり」、「福祉」×「人財育成」といった視点から学びを深めることができました。引き続き、様々な「福祉」×「〇〇」を見つけていくことで、幅広い視点を養っていきたいと考えています。

[文：社会福祉学科茶屋道ゼミ3年

花田・町田・田代・横内・岡元・高橋・松尾・湯坐]

防災教育に関する指導力向上プロジェクト始動

教員・保育士を目指す学生が参加

本学では防災に関するプロジェクトをスタートさせました。今年度は教員や保育士を目指す児童学科の学生を対象に、帖佐尚人准教授(教育学)が全5回のプログラムを企画し、これまで、避難所運営を模擬的に体験するゲーム「HUG」などを行いました。

3回目となる5月21日は、帖佐ゼミ3・4年生28人が段ボールベッドを組み立て、避難所の居住スペースを整える体験や、水が流れないなどの理由で避難所の

トイレが使えなくなる事例が多いことから、簡易トイレの制作を行いました。

担当した帖佐准教授は、「将来、先生になった際に勤務する学校が避難所にな



ることもあるため、実践的に学ぶ機会は大切。今回の活動を通して、防災についての当事者意識を持ってもらうことを期待している」と話しました。

今回のプロジェクトは、昨年12月に東日本大震災で幼稚園児の娘を亡くした母親らとビデオ電話を通じて実施した防災講話がきっかけとなり、教員や保育士を志す学生の防災教育の指導力向上を目的としています。

